

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

基本計画に基づき、「住みたいと思う暮らし環境づくり」と「ふれあいと交流のある賑わいづくり」に向けた取り組みを、平成28年度も引き続き進めている。

集客の核となっている第1ポルタビルでは、平成24年4月の再生オープン時に残っていた空きスペースを活用して子育て支援機能の拡充を図り、平成28年3月20日に「こども・子育てひろば『えみふる』」をオープンした。オープン後の施設利用は順調であり、平成28年度のおそびの広場と乳幼児健診センターを合わせた利用者数は64,935人と、基本計画において平成31年度の利用者目標とした51,770人を上回っている。また、健康づくり拠点整備事業により、平成29年4月1日に「いわみざわ健康ひろば」が第2ポルタビルにオープンし、健康チェック、健康教室や自由に利用できるコミュニティスペースを利用した人は、1か月間で1,078人（オープニングセレモニー含む）となっている。

一方、平成23年度に完了した駅北土地区画整理事業の区域内では、平成27年度に引き続き平成28年度も共同住宅や戸建て住宅の建設が続き、民有地の多くは土地利用を完了した。また、中心市街地内にグループホーム1棟を含む8棟、68戸の民間共同住宅が建設され、90人程度が入居するなど、居住者人口の増加に寄与した。

さらに、まちなか朝市など市の「まちなか活性化事業補助金」を活用した各種イベントが開催されるとともに、「空き店舗等改修支援事業」を受け、平成27～28年度の2か年で10件の空き店舗が小売店や飲食店に改修されるなど、ハード事業、ソフト事業とも順調に進められ、十分な事業展開がみられた。

中心市街地の商店街においても、市の「まちなか活性化アドバイザー派遣事業」を受けて、2つの商店街が集客施設の整備等に向けた構想・計画づくりに取り組んでおり、集客施設である「であえーる岩見沢」や「生涯学習センター“いわなび”」から周辺商店街へ回遊を促すことが期待される。

2. 平成 28 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 28 年度は活性化基本計画の 2 年度目となるが、岩見沢市では平成 27 年度に実施した「子育て支援機能拡充事業」により整備された「あそびの広場」の企画運営を行うとともに、「いわみざわ健康ひろば」整備などの新規事業に取り組み、計画されている各事業はほぼ順調に進捗している。

協議会としても、共同住宅の建設費補助やイベントの開催費補助などの「まちなか活性化事業補助金」の審査・決定・事後評価を行うことを通じて、各団体の中心市街地活性化の取り組みを応援し、居住者人口が前年度より 65 人増加するなどの成果を挙げることができた。

4 つの目標指標のうち、居住者人口と公共・公益施設利用者数は前年度より増加し、空き店舗数は前年度より減少となった。特に、平成 28 年度の公共・公益施設利用者数が計画の目標値である 50 万人を超えるなど、であえーる岩見沢の再生を中心とした施策の効果が現れているといえる。

しかしながら、もう一つの目標指標である歩行者・自転車通行量については、昨年度に引き続き減少している。居住者人口や施設利用者数が増えているにもかかわらず、通行量が増えていないことについて、施策の効果を客観的に分析するとともに、施策の見直しを検討する時期に来ていると考える。

今後とも、基本計画掲載事業の着実な推進に努めるとともに、目標指標を達成するために必要な対策についても検討を進められたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
暮らし環境の向上によるまちなか住まいの促進	中心市街地居住者人口	3,508 人 (H25)	3,800 人 (H31)	3,579 人 (H28)	①	①
岩見沢らしい賑わいづくりで生まれる回遊の促進	中心市街地歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)	4,281 人 (H26)	4,800 人 (H31)	3,561 人 (H28)	③	③
	商業業務集積地区空き店舗数	61 件 (H26)	50 件 (H31)	53 件 (H28)	①	①
多世代がふれあうまちなか交流の促進	公共・公益施設利用者数	449,946 人 (H25)	500,000 人 (H31)	586,943 人 (H28)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

基本計画に掲載したハード事業は計画通りに進捗しており、事業の遅延は見られない。しかしながら、継続中の事業もあり、数値的効果は十分には発現していない。

「居住者人口」については、好調な民間共同住宅の建設を受けて、基準値から71人の増となり、今後、市営住宅整備事業、3・5地区マンション事業等が進められることで目標達成は可能と考える。「中心市街地歩行者・自転車通行量」については、基準値より大幅な減となったが、居住者人口増による効果及び空き店舗等支援事業による効果が見込まれることから、目標は達成可能と考える。「商業業務集積地区空き店舗数」は、平成27年度と平成28年度合わせて10件の空き店舗改修支援を実施したことなどにより、基準値から8件の減となり、平成28年度からスタートした創業支援事業と連携しつつ、今後ともこのペースで空き店舗の活用を進めることで目標達成は可能であると考えます。「公共・公益施設利用者数」は、平成28年度で目標値の500,000人を超え、「こども・子育てひろば『えみふる』」に加えて「いわみざわ健康ひろば」がオープンしたことから、目標達成は可能であると考えます。

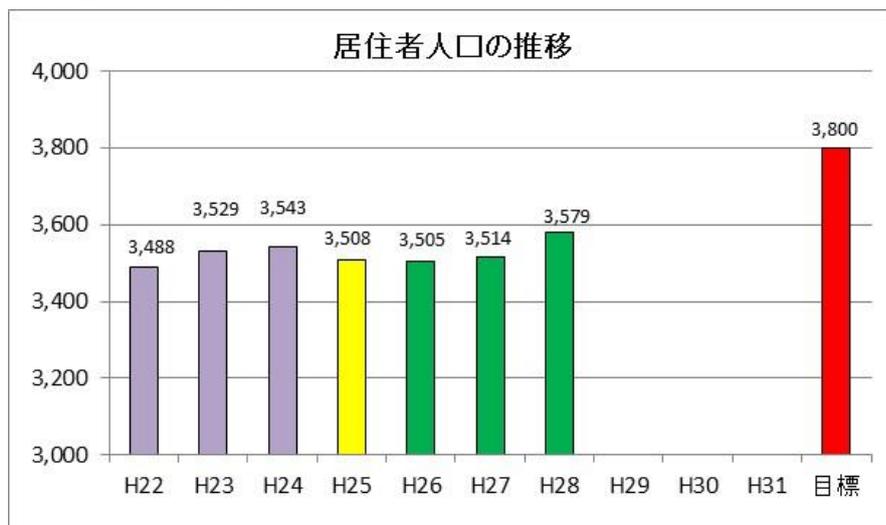
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しは変わっていない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地居住者人口」※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	3,508 (基準年値)
H26	3,505
H27	3,514
H28	3,579
H29	
H30	
H31	
H31	3,800 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳による

※調査月：毎年12月末

※調査主体：岩見沢市

※調査対象：平成28年12月31日現在の中心市街地の居住者人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 3・5地区マンション事業（松浦建設(株)）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	3条西5丁目に3LDK、14戸のマンションを建設し、賃貸事業を行う。
事業効果及び進捗状況	ファミリー世代に対応した共同住宅を供給し、まちなか居住を促進する。 平成22年度に実施設計を完了したが、事業主の都合により工事着手が遅れており、金融機関からの融資などの条件が整う見込みである平成30年度に建設工事を行う予定となっている。

②. 市営住宅整備事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成27年度～平成29年度【実施中】
事業概要	市営住宅2条団地の建物を解体した跡地に、20戸の市営住宅を建設する。20戸のうち6戸を子育て世帯の優先特定入居とする。 構造は、鉄筋コンクリート造7階建て。
事業効果及び進捗状況	前基本計画期間中に、岩見沢駅北土地区画整理事業区域内に建設した北1条団地に続いて、中心市街地内に市営住宅を建設することで、まちなか居住を促進する。 平成27年度から解体工事に着手しており、平成28年度に建設工事に着手し、平成29年度に竣工の予定となっている。

③. 有料老人ホーム建設事業（民間事業者）

事業完了時期	平成27年7月【済】
事業概要	2条西5丁目にある民有地を利用し、50人入居の介護付き有料老人ホームと34人入居のサービス付き高齢者向け住宅を建設する。
事業効果及び進捗状況	市の高齢者保健福祉計画・介護保険計画に位置づけられた特定施設をまちなかに建設し、まちなか居住を促進する。 4月末現在で、介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者向き住宅ともに満室となっている。

④. まちなか活性化事業補助金（岩見沢市）

事業完了時期	平成27年～平成31年度【実施中】
事業概要	民間事業者による共同住宅の供給に対し、その建設費の一部を市が補助する。
事業効果及び進捗状況	民間事業者が実施する共同住宅の建設を支援することで、まちなか居住を促進する。 計画では年間平均18戸の民間共同住宅の供給を見込んでいたが、平成28年度中に7棟50戸が供給された。市の補助金を活用したものは、そのうち3棟18戸である。

⑤. 空き店舗・空き家等利活用促進事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地にある空き店舗、空き地や空き家の調査・紹介・相談業務を行うとともに、家主への家賃引き下げ交渉を行って、空き店舗や空き家、空き地の解消を図る。
事業効果及び進捗状況	中心市街地の空き家や空き地を活用してまちなか居住の促進を図る。 平成27年度に、空き家や空き地の調査・紹介を行う窓口を設置した。中心市街地には22戸の空き家があり（H28.10調査）、平成28年度に6戸の入居があった。 平成28年度から新たに住宅購入支援助成金の支給を実施し、全市で25件の利用があった（中心市街地は0件）。

●目標達成の見通し及び今後の対策

駅北土地区画整理事業が平成23年度に完了しているが、前期基本計画期間中では、市有地の土地利用が主で、民有地の土地利用が進んでいなかった。平成27年度に供給された民間共同住宅8棟のうち6棟が駅北土地区画整理事業区域内の民有地利用であり、空き地を活用しての住宅供給が進められている。また、駅北土地区画整理事業区域内において戸建て住宅が5棟建設されている。

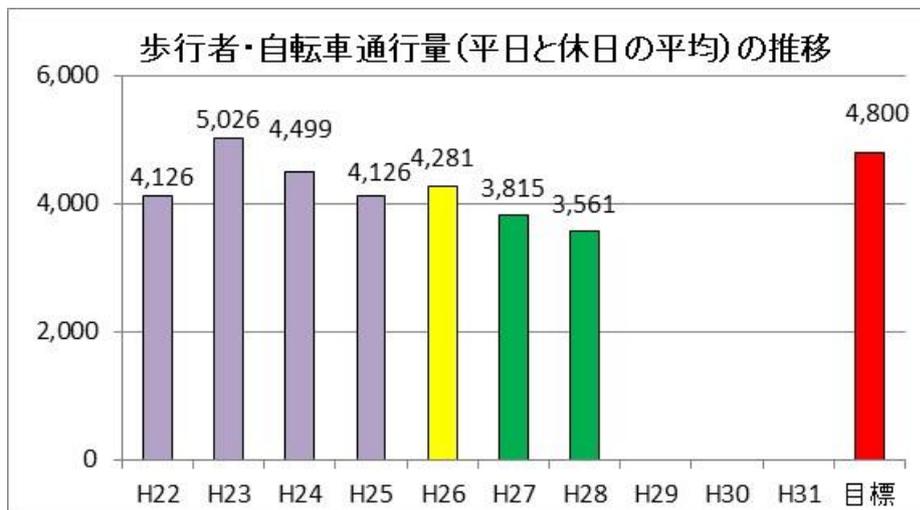
平成28年度は、中心市街地内にグループホーム1棟を含む8棟68戸の民間共同住宅が供給された効果もあり、居住者人口は65人の増加となった。

今後、市営住宅整備事業、3・5地区マンション事業等が進められ、また、平成28年度に

開始した新築住宅や中古住宅購入に対する支援制度の効果が発揮されることで、目標達成は可能と考える。

「中心市街地歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」※目標設定の考え方基本計画 P77～P81 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	4,281 (基準年値)
H27	3,815
H28	3,561
H29	
H30	
H31	
H31	5,700 (目標値)

※調査方法：平日2日間、休日2日間（土・日各1日）の歩行者及び自転車の12時間通行量を調査し、平準化した数値を用いる。

※調査月：毎年秋季（9月頃）

※調査主体：岩見沢市

※調査対象：調査は中心市街地内17地点において実施するが、目標指標としてはそのうち口の字回廊4地点の合計通行量を用いる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 子育て支援機能拡充事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成28年3月【済】
事業概要	平成24年4月に開設した「子育て支援センター」、常設型親子ひろば「ひなたっ子」、「幼児ことばの教室」に加えて、乳幼児健診や母子相談業務などを集約するとともに、子どもの創造性を伸ばすような屋内型あそび場を拡充する。これにより、妊娠前から妊娠、出産、育児、そして就学までの切れ目ない支援体制を整える。
事業効果及び進捗状況	子育て支援機能を拡充することで、であえーる岩見沢の魅力向上、集客力アップを図り、来街率の向上とまちなかの賑わい創出を図る。 子育て支援施設は、であえーる岩見沢3階に「こども・子育てひろば『えみふる』』として、平成28年3月20日にオープンした。その中心にある屋内型の遊び場「あそびの広場」の平成28年度利用者数は56,360人、平成28年度から「えみふる」で実施している乳幼児健診の利用者は8,575人と予想を上回る利用があった。

②. 空き店舗等改修支援事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗や空き家を店舗等に変更したり、2階以上の空き店舗を賃貸住宅に変更する場合に、改修費用を補助する。
事業効果及び進捗状況	空き店舗や空き家を活用して店舗・飲食店等とする改修費用を補助し、空き店舗の解消と商店街の活性化を図る。 計画では毎年 4 店舗の改修実施を見込んだが、平成 27～28 年度で合計 10 件の実績があった。

●目標達成の見通し及び今後の対策

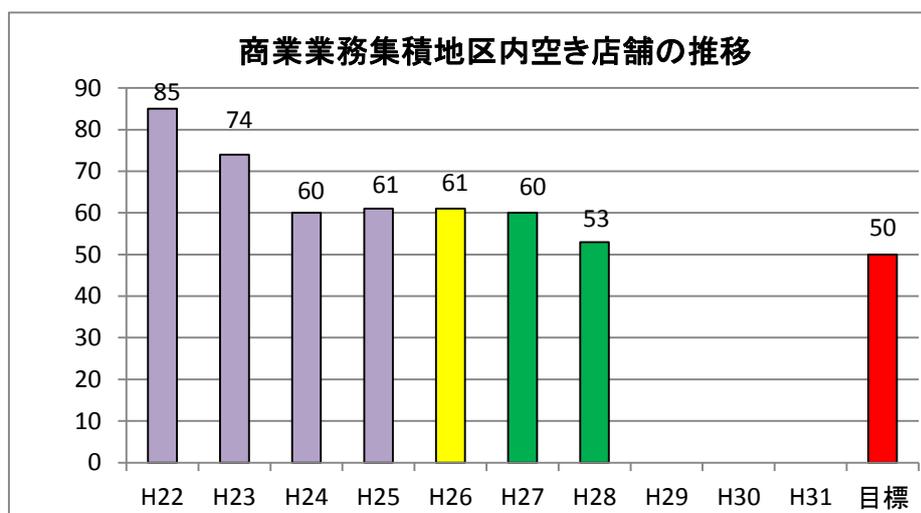
平成 28 年の歩行者・自転車通行量は、前年と比較して 254 人/日の減となった。

通行量の増減を年齢階層別に比較すると若年層が増加している一方で高齢者の減少が大きい傾向が見られる。集客の核となっている「であえーる岩見沢」の利用者が増えたにも関わらず周辺の歩行者・自転車の通行量が減となった理由として、「であえーる岩見沢」は子育て支援施設「えみふる」のオープンにより若年層の入込客が増加したが、多くの利用者はビル内に留まり、まちなか回遊には繋がらなかったこと、その一方で病院や金融機関など周辺施設を多く利用する高齢者の減少が大きかったことが挙げられる。

対策として、「であえーる岩見沢」から周辺地域、特に口の字回廊への波及効果を狙い、店舗・商店街の魅力向上を促進することや、高齢者などが気軽に立ち寄り休める場所・子どもの外のおそび場などそれぞれの年齢層に魅力あるスペースを用意することなど、回遊を促すような場や機会を増やしていくことで、目標達成は可能であると考え。今後も引き続き、目標達成に向けて事業が着実に実施されるよう、最大限取り組んでいく。

「商業業務集積地区空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P81～P83 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	61 (基準年値)
H27	60
H28	53
H29	
H30	
H31	
H31	50 (目標値)

※調査方法：現地調査により確認

※調査月：毎年10月

※調査主体：岩見沢市

※調査対象：商業業務集積地区内の空き店舗数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗等改修支援事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗や空き家を店舗等に変更したり、2階以上の空き店舗を賃貸住宅に変更する場合に、改修費用を補助する。
事業効果及び進捗状況	空き店舗や空き家を活用して店舗・飲食店等とする改修費用を補助し、空き店舗の解消と商店街の活性化を図る。 計画では毎年 4 店舗の改修実施を見込んだが、平成 27～28 年度で合計 10 件の実績があった。

②. 創業支援事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗など創業しやすい環境が整っている中心市街地での創業を支援する。
事業効果及び進捗状況	相談窓口の設置、創業塾の開催、創業支援補助金等により創業希望者に対する支援を行う。 平成 28 年度は相談窓口及び創業塾での創業支援者数は 91 件、中心市街地内の創業者数では 7 件の実績があった。

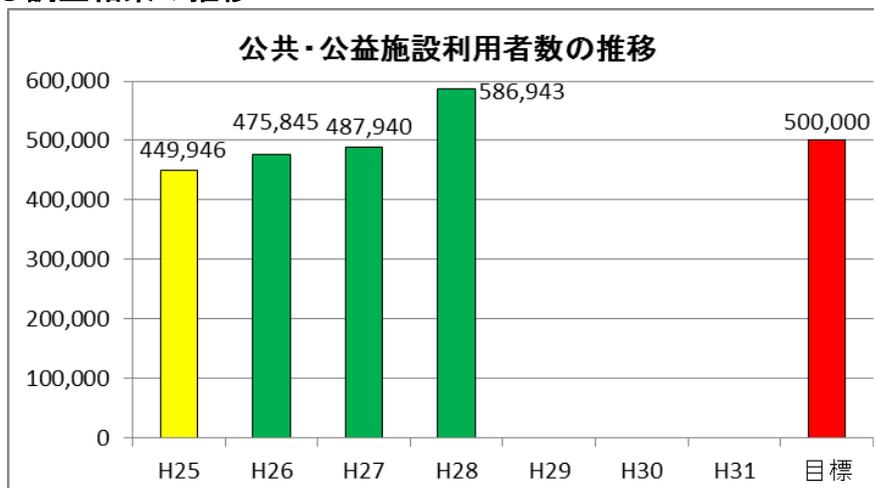
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 28 年度の空き店舗活用や解体などによる空き店舗解消数は 13 件、事業主の高齢化あるいは経営が行き詰まるなどの理由による廃業で、新規に 6 件の空き店舗が発生しており、前年と比べ 7 件の減となった。

平成 28 年より実施している創業支援事業と連携し、中心市街地内での創業を支援していくことで、目標達成は可能であると考えます。

「公共・公益施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P85 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	449,946 (基準年値)
H27	475,845
H28	487,940
H29	586,943
H30	
H31	
H31	500,000 (目標値)

※調査方法：各施設管理者からの聞き取りによる
 ※調査月：毎年 4 月
 ※調査主体：岩見沢市

※調査対象：中心市街地内に立地する8つの公共・公益施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 子育て支援機能拡充事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成28年3月【済】
事業概要	平成24年4月に開設した「子育て支援センター」、常設型親子ひろば「ひなたっ子」、「幼児ことばの教室」に加えて、乳幼児健診や母子相談業務などを集約するとともに、子どもの創造性を伸ばすような屋内型あそび場を拡充する。これにより、妊娠前から妊娠、出産、育児、そして就学までの切れ目ない支援体制を整える。
事業効果及び進捗状況	子育て支援機能を拡充することで、であえーる岩見沢の魅力向上、集客力アップを図り、来街率の向上とまちなかの賑わい創出を図る。 子育て支援施設は、であえーる岩見沢3階に「こども・子育てひろば『えみふる』」として、平成28年3月20日にオープンした。その中心にある屋内型の遊び場「あそびの広場」の平成28年度利用者数は56,360人、平成28年度から「えみふる」で実施している乳幼児健診の利用者は8,575人と予想を上回る利用があった。

②. 健康づくり拠点整備事業（岩見沢市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	第2ポルタビル1階の空き店舗を活用して、健康づくりの拠点「いわみざわ健康ひろば」を整備する。 成人検診やレディース検診等を行うとともに、日常的な健康相談ができるカフェを設置する。
事業効果及び進捗状況	健康づくり拠点を整備することで、であえーる岩見沢の魅力向上、集客力アップを図り、来街率の向上とまちなかの賑わい創出を図る。 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）を受けて、平成28年度の施設整備を実施した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

対象としている8施設については、基準年である平成25年度から7施設で利用者数が増加している。平成28年度はであえーる岩見沢に「こども・子育てひろば『えみふる』」がオープンしたことで、予想を上回る約8万人の利用者増となった。また、日本商工会議所青年部の全国大会が開催されたことでコミュニティプラザの利用者についても1万人以上の増となったこともあり、目標値を達成した。

平成29年度はコミュニティプラザの利用者は減となる見込みだが、であえーる岩見沢は「いわみざわ健康ひろば」の利用者として、16,670人の増を見込んでおり、目標値である500,000人の達成維持は可能であると考えている。